

『人間の声』

—プーランクのオペラをより深く解釈するために—

日本語訳 千田 恭子

La Voix Humaine
Pour d'interpréter l'opéra de Poulenc plus profondément

Traductrice Kyouko SENDA

E-mail: senda@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード: オペラ コクトー プーランク 解釈 表現

Keywords: Opéra, Cocteau, Poulenc, Interprétation, Expression

はじめに

コクトー (Cocteau, J 1889 ~ 1963) の戯曲をもとにプーランク (Poulenc, F 1899 ~ 1963) が作曲したモノオペラ『人間の声』(1958年作曲、1959年初演。戯曲としての初演は1930年) に私が初めて巡り会ったのは、もう25年も前のことである。フランス語は全くわからないにもかかわらず、後々まで印象に残ったことを覚えている。2002年に同作品を原語で演奏する機会を得た(2002年6月、愛知県名古屋守山文化小劇場、演出: 伊藤明子)。オペラの台本はコクトーが書いた戯曲全てではなく、作曲家のプーランクと初演時に唯一人の登場人物を演じたソプラノ歌手、ドゥニーズ・デュヴァル (Duval, D 1921 ~) が検討を重ねてカットを施したものである。その台本によるオペラの初演の時、コクトーは演出と舞台装置を担当し、「親愛なるフランシス、君は僕のテキストを『朗誦』する方法を見つけてくれた」⁽¹⁾ という讃辞をプーランクに書き送ったという事を知り、カットされた部分は気にせず、台本テキストを読み込み、人物像を描き、自分なりの舞台を作り上げることができたと思っていた。2004年、ジェシー・ノーマン (Norman, J 1945 ~) が来日し、この作品を演じた。残念ながら生の舞台を観ることはできなかったが、後日、NHKの教育テレビでライブ映像が放送された(2004年8月、芸術劇場) のを観て、役作りと表現の差を

痛烈に感じたのである。演出そのものの違いなのか、アメリカ人と日本人の持っている性格の差なのか、他に何か理由があるのか…。もちろん、それらの全てに原因があるのであろう。そこで、役創りの差がどこから発生するのか理由を探し出そうと戯曲そのものの翻訳を試みることにした。

『人間の声』の翻訳はコクトー全集⁽²⁾ に収められている。そこで私は、声楽家が役作りの追求のため、プーランクのオペラの原作を研究するという立場で翻訳を試みることにした。恋人に捨てられた女は前夜睡眠薬自殺をしようとし、一命を取り留めて苦悩の1日を終えた。死体のようにうずくまる女の部屋に電話のベル。5年間の愛の生活を捨てて3日前に去って行った男からの最後の電話。男は明日、別の女と結婚するらしい。男とかわす最後の会話。それがオペラの全てである。電話の相手は姿を見せることはなく、声さえも観客に聞かせることはない。

プーランクとデュヴァルがカットした部分にはどのような人物像が描かれているのかを探りつつ、楽譜に込められたプーランクのメッセージと対比しながら翻訳することによって、オペラ作品としての『人間の声』の新しい魅力を発見したいと思う。

以下は翻訳であるが、序文、舞台装置、本文という構成で書かれている。

『人間の声』

ジャン・コクトー

序文

この劇の作者は実験を好む。何が行われたかという結果を見た後で、何を行いたかったかを自分に問いかけてみるのが習慣になっているので、作者自身が物事の情報を直接知らせるのが一番簡単であろう。

この劇を書くことを決定させたいくつかの動機がある。

1. 作者自身が持っている極度の怠慢さを書くことを拒んでいたとしても、不可解な動機は詩人を書くことに駆り立てる。おそらく、電話での意表をついたやりとりの思い出とか、ベルの音の重々しい異様さ、会話が途切れた時の沈黙の長さなどがそうであろう。

2. 仕掛けを扱すぎるとか、場当たりの作品であるとか、演出に頼りすぎると言っただけで人は作者を非難する。従って彼は最大限に劇を単純化することが必要であった。すなわち、一つの幕、一つの部屋、一人の登場人物、愛、そして現代劇におけるありふれた小道具の一つである電話である。

3. 現実的な演劇の中の人生は、美術の展覧会のキャンバスのようなものである。作者はある座っている女性、特定の女性ではなく、聡明な女性でも愚かな女性でもなく、しかも個性のない女性を描かなければならない。また、生气や即座にやり返す対話、子供の言葉のように耐え難い恋人達の言葉を避けること、つまり、それ自体が有毒で粘っこく、さらには演劇そのもの、ソフォクレスやラシーヌやモリエールの生き生きとした難解さを持つ真の演劇とこっそり入れ替わっているような演劇による演劇の全てを避けることが必要であった。この企画の困難さは作者も想像した。そこで彼はヴィクトル・ユゴーの助言に従い、心の葛藤を扱うのに最も適さない電話の混線を使って悲劇と戯曲を喜劇で結びつけたのである。

4. 最後に、この作者は、俳優としての才能に害をもたらす服従を演技者に強要したり、常に最高の席を要求したりすると、しばしば非難されているので、難解な脚本を書いてみたいと思った。『ロメオ』⁽³⁾

に「上演の口実」と題を付けたように、女優を口実にしたといえる。彼女の演技の陰にその台本は消えているが、この劇作品は女優に二つの役柄を与えている。語る時と、聞く時に沈黙によって表現される姿を見せない人物の性格をはっきり現す役である。

追記. 作者が何か心理学的な解決を求めていると思うのは間違いである。それはただ、演劇的な注文の諸問題を解決することだけである。演劇、説教、演説、文学が混合している事態こそ、まさに干渉しなければならない禍であるのだから。もし純粋劇や純粋詩が冗語法でないなら、純粋劇というのが流行の語法であろう。純粋詩は詩を、純粋劇は演劇を意味するのだから。他の演劇は存在するはずもない。

作者がコメディ・フランセーズ劇場でこの劇を上演したのは、最悪の偏見、つまり、国立劇場に対する新興劇場の偏見を断ち切る為だと付け加えておこう。ブルヴァール演劇⁽⁴⁾は映画に場所を譲り、時代の先端と言われた舞台が、徐々にブルヴァール演劇の位置を占め、国立という額、金箔の額に入った舞台だけが、あからさまでない新しさを持つ作品を引き立てる唯一の可能性をとどめているのだから。

新しいブルヴァールの観衆は感動に飢えていて、何事にも敬意を払わず、あらゆる物を欲しがらる。コメディ・フランセーズ劇場にはまだ感情に貪欲な観衆がいるのだ。これといった特徴のない劇場のために作者の個性は姿を消し、今日性によってこれ以上歪められなければ《コメディ・フランセーズ劇場での興行》は、作品が本来持っている起伏と鑑賞距離を作品から引き出すのに適しているのだ。

舞台装置

場面は婦人の寝室の任意の一角を現し、彩色した織物の赤い縁に囲まれて限られている。部屋は薄暗く青みがかかっていて、下手には乱れたベッド、上手には非常に明るい白い浴室に向かって半分開かれたドアがある。中央の仕切には傾いた、引き伸ばした名画の写真、あるいは家族の肖像が掛けられている。要するに不吉な感じの印象である。

プロンプターボックスの前には低い椅子と小さなテーブルがあり、電話と数冊の本、鋭い光を放っているランプがある。

幕が上がると、殺人が行われたような部屋が現れ

る。ベッドの前の床の上に、一人の女が長いシュミーズを着て、まるで殺されたかのように横たわっている。間。女は起き上がって姿勢を変えるが再びじっと動かない。ようやく決心して立ち上がるとベッドの上のコートを取り、電話の前で少し立ち止まってからドアの方へ向かっていく。ドアに手が掛かった時電話のベルが鳴る。女はコートを投げ出して飛びついていく。コートがまとわりつくので脚で蹴飛ばす。受話器をはずす。

この瞬間から女は話し始める。立ったり、座ったり、背を向けたり、正面を向いたり、横向きになったり、肘掛け椅子の背の後に跪いて、頭だけを切られた首のように背もたれの上にもたせかけたりしながら。そして部屋の中を電話線を引きずりながら大股で歩き回るのだ。最後に腹這いになってベッドに倒れてしまうまで。その時、女の頭はがっくりと傾き、受話器は小石のように床に落ちる。

それぞれの姿勢は、この独白的対話の一つ一つの局面（犬の局面、嘘の局面、間違い電話の局面等々）を、よく生かさなければならぬ。神経の焦燥状態は急速に表れるのではなく、この連続した姿勢によって表現される。そして、その姿勢の一つ一つは不安の絶頂にいることをはっきりと現さなくてはならない。

化粧着のシュミーズ、天井、ドア、肘掛け椅子、椅子カバー、白いランプの笠。

プロンプターボックスの照明で座っている女の背後に長い影を作り、ランプの笠の明かりを強調するような工夫すること。

この劇の様式は活気のようなものを全て排除している。従って、作者の指導もなく演じる女優には捨てられた女の皮肉や辛辣さを全く加えないように願う。この人物は恋人を愛しきった、平凡な犠牲者なのだ。彼女は一度だけ策を試みる。それは、男が嫌な思い出を自分に残さないために、嘘を告白するようにしむけることなのだ。これを演じる女優は血を流している印象、足に怪我をした獣のように血を失い、血に満ちた部屋の中で幕が終わるような印象を与えることを希望する。

台本を尊重すること。フランス語の語法の誤りと

か、繰り返したり、文学的な言い回しとか、ありふれた言葉使いは注意深い吟味の結果なのだ。

唯一の登場人物を最初に演じたのはベルト・ボヴィ嬢。

「人間の声」は1930年2月17日にコメディ・フランセーズ劇場に於いて初演された。

人間の声

※下線部を付した部分はオペラの歌詞として用いられた部分。

※頻繁に使われている……は原作で使われている長さに従った。

はい、もしもし、もしもし……いいえ、ちがいます、混線しているんですわ、おかけなおし下さい……もしもし……相手がちがいます……まあ！……もしもし！……ですけど、あなたの方でお切りになったらどうです……もしもし、交換手さん。もしもし……切って下さいって言っているのに……いいえ、シュミット医院ではありません……08です、07ではありません……もしもし！……ふざけてるわ……誰かが私にかけてくるんだけど、わけがわからないわ。（女は電話を切るが、その手は受話器に置いたまま、電話が鳴る）…もしもし！……またですか。私にどうしろとおっしゃるんですか？……なんて失礼な人なの……まあ、私の方が悪いんですって……そんなことあるもんですか……とんでもない……もしもし！……もしもし、交換手さん……誰かがかけて来てるんですけど、話が出来ないんです。ひどく混線してるんですよ。この女の人に引っ込むように言って頂戴。（電話を切る。電話が鳴る）もしもし！あなたなの？……あなたなのね？……ええ、そう……ちっとも聞こえないの……とても遠い、とても遠いよ……もしもし！……まあ、嫌になっちゃうわ……ひどく混線してるのよ……かけなおして下さい。もしもし！か・け・な・お・し・て……

私にかけなおしてって言うてるの……まあ、おくさん、切ってください。何度言えばわかるの、こちらはシュミット医院じゃありませんったら……もしもし！……（電話を切る。電話が鳴る）

ああ、やっと通じたわ……あなたなのね……ええ……よく聞こえます……もしもし！……ええ……電話がひどく混線していて、あなたの声が聞こえなくて、辛かったわ……ええ……ええ……いいえ……ちょうどよかったのよ……10分前に戻ったところなの……いない時にかけて下さった？……あら！……いいえ、ちがうのよ……外でお食事をしたの……マルトの家で……今は11時15分過ぎくらいね……あなた家にいらっしゃるの？……だったら電気時計をご覧くださいな……私の思った通りでしょ……ええ、そうよ、あなた……昨日の夜？昨日の夜はすぐに寝たわ。でも寝つけなくて薬を飲んだの……いいえ……錠だけ……九時にね……頭が少し痛かったけど、頑張って起きたの。マルトが来たから、お昼を一緒に食べたわ。それから買い物をして、家に戻ったの。それから手紙をみんな黄色い鞆にしまったわ。私……え？……大丈夫……ほんとよ……私すごく元気なんですもの……それから？それから服を着替えて、マルトが迎えに来たわ……そして彼女のところから帰って来たわけ。彼女、とてもいい人ね……とても、とても親切にしてくれたわ……あの人、見かけはあんな風だけど実際はそうじゃないのね。あなたの言っていた通りだわ。いつものことだけど……毛皮の付いた薔薇色のドレスよ……帽子は黒……ええ、まだ帽子をかぶったままよ……いいえ、煙草なんて吸っていないわ。三本くらいしか吸ってないわよ……いいえ、ほんとよ……ほんとだったら……優しいのね……あなたの方はどんな様子？戻ったところなの？……ずっと家にいたのね……何の訴訟？……ああ！あれね……あまり疲れないようにしてね……もしもし！もしもし！切らないで。もしもし！……もしもし！あなた……もしもし！……もし電話が切れてしまったら、すぐにかけて直してね……勿論よ……もしもし！いいえ……私はここにいるわ……鞆？……あなたの手

紙と私のとね。都合のいい時に取りによこして下さって結構よ……少し辛いけど……わかってるわ……あら！言い訳なさないで。それが普通なんですもの。どうかしてるのは私の方だわ……いい人ね、あなたは……優しいのね……私はもう違うの。こんなにしっかりしているなんて自分でも思わなかったわ……感心されるほどじゃないの。夢遊病者のように動いてるだけなのよ。機械的に服を着て、出かけて。帰ってきただけ。明日になったら、たぶん、がっくりするんでしょうね……あなたが？……そんなことないわ……だって、私はあなたを責める気は全くないんだもの……私……私……これでいいのよ……何ですって？……当然のことよ……まるで反対よ……私たちは……私たちは、いつもお互いに隠し立てをしない約束だったもの。あなたが最後まで私に知らせないようにしていたのなら、私もあなたを責めたはずよ。突然言われたりしたら、それこそみじめだったわ。でも今度の場合は、私も状況を理解して覚悟を決めるだけの時間がありましたもの……お芝居ですって？……もしもし！……誰のこと？……私があなたにお芝居をしているんですって、この私が！……あなたがご存知のはずでしょ、私にそんなことができるはずないってこと……とんでもない……そんなことあるもんですか……とても落ち着いてるわ……あなたにもわかる筈だわ……「あなたにもわかる筈だわ」って言ったのよ。何か隠し事をしている人の声じゃないでしょう……いいえ。私、気持ちをしっかり持とうって決めたの。だから、そうします……なんですって？……それは別のものよ……そうかもしれないわね、でも、あれこれ考えて、不幸に対して覚悟していても、やっぱりショックはうけるもの……大げさに考えないでね……とにかく私には心の準備をする時間はあったんですもの。あなたは私を気遣って、そっとしておいて下さったわ。……私たちの関係にはとても無理が多かったのよ。幸せだった5年の月日を拒むか、危険を冒すかのどちらかしかなかったんですもの。私は、人生が万事うまく行かないなんて思ったこと、一度もなかったわ。高くついた

けど、計り知れないほど幸福だったわ……もしもし……計り知れないって言ったのよ。だから後悔なんか……私……後悔なんかちっともしてないわよ、ええ、ちっとも……あなたは……あなたの間違いよ……あなたの……あなたの……あなたのせいじゃないわ、私……もしもし！……私は当然の報いを受けただけ。私はあなたに夢中でいたかったし、夢中でいる幸せが欲しかった……あなた……ねえ……もしもし！……あなた……ちよっと待って……もしもし……私に話をさせて。あなたが自分を責めることはないわ。みんな私が悪かったの。いいえ、そうなのよ……ヴェルサイユに行った日曜日のことや、速達のことを覚えているでしょう……ほら！……だから！……行きたいと言ったのも私、あなたに何も言わせなかったのも私、どうでもいいと言ったのも私よ……いいえ……いいえ……ちがうわ……それはあなたの勘違い……私が……私が先に電話したのよ……いいえ、火曜日……火曜日だったわ……確かよ。27日の火曜日。あなたの電報が着いたのが26日の月曜日の夜。そんな日付をよく覚えているって思っているんでしょ……あなたのお母様が？なぜ……そんなことして頂かなくても……まだわからないの……ええ……たぶんね……あら！だめよ、すぐにはとても無理だわ、じゃあ、あなたは？……明日？……そんなに急だとは知らなかったわ……そうね、待って……簡単なことよ……明日の朝、鞆を管理人に預けるわ。ジョゼフが取りに立ち寄ればいいのよ……ああ！私のことなら、ここにいるかもしれないし、田舎のマルトの家に行きかたかもしれないわよ。悲しんでいるようだよ。昨日は一日中、玄関と寝室の間で過ごしていたわ。私をじっと見てるのよ。聞き耳を立ててね。あちこち、あなたを探しているの。私が座ったままで、一緒にあなたを探そうとしないものだから不満なのね……あなたが連れて行った方がいいと思うわ……このままじゃ、かわいそうに決まってるじゃない……あら！私が！……あの犬は女性向きじゃないわよ。私はうまく世話もできないし、散歩もさせられない。あなたと一緒にいる

のが一番いいのよ……私のことなんかすぐに忘れるわよ……様子を見てみましょう……そのうちわかるわ……そのことなら、ちっとも面倒なんかじゃないわ。これは友達の犬だって言うだけだもの。あのこはジョゼフがとても好きなのよ。ジョゼフを引き取りによこして下さればいいわ……赤い首輪を付けておくわ。ちゃんとしたプレートがないのよ……あとではっきりさせましょう……ええ……ええ……そうよ、あなた……わかったわ……勿論よ、あなた……どの手袋？……毛皮の付いた手袋、車を運転する時の手袋ね？……知らないわ。見かけなかったわ。どこかにあるかもしれないわね。見てみるわ……待っていてね。電話が切れないようにしていてね。

(女はテーブルの上のスタンドの後から、運転用の毛皮の付いた手袋を取り上げると、情愛を込めて接吻する。そして手袋を頬に押し当てながら話す)

もしもし……もしもし……ないわ……箆笥の上も、肘掛け椅子の上も、玄関も、そこら中探したけど、ないのよ……ねえ……もう一度探してみるけど、きっとないと思うわ……もし明日の朝にでも見つかったら、鞆と一緒に下に置いておくわ……あなた？……手紙ね……ええ……焼いてもいいわよ……私、ばからしいお願いが一つだけあるんだけど……いいえ、こういうことなの、あなたに言いたいのは、もし手紙を焼くんだったら、その灰を、煙草入れになさいってあなたにあげた、鼈甲の小箱に入れておいて欲しいのよ。それから、あなたが……もしもし！……いいえ……私、ばかね……ごめんなさい。私、もっとしっかりしてたのに。(泣く)……さあ、もう大丈夫。涙をふくわ、とにかく私はその灰を貰えれば嬉しいの、それだけよ……あなたって、なんていい人なの！……ああ！(女優は「」内の台詞はよく知っている外国語で言うこと)「あなたの妹さんの書類は台所の竈でみんな燃やしてしまったわ。はじめは、包みを開けて、あなたの言っていたデッサンだけは取り出しておこうと思ったんだけど、あなたが全部燃やせて言ったから、全部燃やしちゃったわ……ああ！そうね……い

いわ……………ええ……………(フランス語で) そのとおりね、あなた部屋着なのね……………もう寝るの? ……あまり遅くまで仕事をしない方がいいわよ、明日の朝早く起きるんだったら、もう寝なくちゃいけないわ。もしもし!……………もしもし!……………これくらいの声ではどう?……………でも、私かなり大きな声で話してるわ……………今度は聞こえる?……………「今度は聞こえる?」って言ったの……………変ね、私の方には、あなたの声がこの部屋にいるみたいに聞こえるのに……………もしもし!……………もしもし!……………あら!今度は私の方が聞こえなくなったわ……………ええ、聞こえるのよ。でも、とても遠いの、とても……………あなたは聞こえるのね。これじゃ、かわりばんこね……………いいえ、切らないで!……………もしもし!……………話し中です、交換手さん、話し中ですってば!……………ああ!聞こえるわ。とてもよく聞こえるわよ。ええ、本当に不愉快ね。まるで死人になったようだわ。そっちの声は聞こえるのに、こっちは聞いて貰えないなんて……………いいえ、よく聞こえるわ、とてもよく。こんなに長い間話し続けられるなんて、本当に信じられないわ。いつもなら3分もしたら切られてしまっ、かけ直すと違う番号だったりするのに……………いいえ、よく聞こえるわ……………さっきよりずっと聞こえる、でもあなたの電話はずいぶん響くのね。あなたの家の電話じゃないみたいよ……………あなたの姿が目に見えなくて。(相手の男は自分の様子を言い当てさせる)……………どんなスカーフか?……………赤いスカーフよ……………ほら!……………首を左側に傾けてるわね……………両方の袖を捲りあげてる……………左手?受話器よ。右手?万年筆ね。吸取紙の上にいるんな人の横顔や、ハートや星を書いている。笑ってるのね⁽⁵⁾!私の耳には眼がついてるのよ……………(反射的に顔をかくすすぐさで)……………あら!いやよ、あなた、絶対に私を見ないで……………こわいかって?……………いいえ、こわくなんかないわ……………もっとタチが悪いの……………どうどう私、一人じゃ眠れなくなってしまったの……………ええ……………そうね……………ええ……………ええ、ええ……………約束する……………私、私……………きっと、そうする……………約束します……………あなたって優しいのね……………わからないわ。自分の

顔を見ないようにしてるの。洗面所の明かりをつける気がなくて。昨日なんか、おばあさんと向き合っているのを見てしまったの……………いいえ、違うの!痩せた、白髪頭の、小じわだらけのおばあさんよ……………あなたって本当にいい方ね!でもね、あなた、美しい容姿なんて、ちっとも有り難くないのよ、役者なら話は別だけど……………私はあなたが「こっちを見てごらん、僕のおかめさん!」って言う時の方が好きだったの……………はい、旦那様!……………ほんの冗談よ……………あなたっておばあさんね……………あなたが要領の悪い人で、思いやりのある人でよかった。もしあなたが思いやりがなくて、ずる賢い人だったら、この電話も恐ろしい武器になるかもしれないわ。証拠を残さない、音も立てない武器にね……………私が意地悪ですって?……………もしもし!……………もしもし!もしもし!……………もしもし、あなた……………あなた、どうしたの?……………もしもし、もしもし、もしもし、交換手さん。(ベルを鳴らす)もしもし、交換手さん、切れましたけど。(電話を切る。間。受話器を取る)もしもし!(ベルを鳴らす)もしもし!……………(ベルを鳴らす)もしもし、交換手さん。(ベルを鳴らす。電話が鳴る)もしもし、あなた?……………いえ違います、交換手さん。切れてしまったんです……………わかりませんわ……………つまり……………ええ……………ちょっと待って……………オートウイユ04コンマ7番です。もしもし!……………お話中?……………もしもし、交換手さん、向こうもかけ直しているんでしょう……………はい。(電話を切る。電話が鳴る)もしもし!……………04コンマ7番?いいえ、6番じゃないの、7番よ。いやだわ!(ベルを鳴らす)もしもし!……………もしもし、交換手さん。違っていましたよ。コンマ6番でしたよ。コンマ7番を呼んでるんですけど。04のコンマ7番、オートウイユ。(待つ)もしもし!オートウイユ04コンマ7番です。ああ!よかったわ⁽⁶⁾。あなた、ジョゼフなのね……………私よ……………旦那様とお話中に電話が切れてしまったの……………そちらにいないですって?……………ええ……………ええ……………今夜はお戻りにならないのね……………そうだったわ、私ったらどうかしてるわ!旦那様はどこかのレストランからかけていらしたのね、そうしたら切れてしまったものだから、お家の電話番号にかけてし

まったの……………ごめんなさい、ジョゼフ……………ありがとう……………どうもありがとう……………おやすみなさい、ジョゼフ……………（電話を切るとほとんど病人のような様子。電話が鳴る）

もしもし！ああ！あなた！あなたなのね？……………切れちゃったのよ……………いいえ、いいえ。私待っていたわ。一度電話が鳴って受話器を取ったけど、誰も出なかった……………きっとそうよ……………もちろんよ……………あなた、眠いのね？……………電話をかけ直して下さって、あなたっていい方ね……………すごくいい方（泣く）……………（間）……………いいえ、ここにいます……………何ですって？……………ごめんなさい……………ばかげたことよ……………何でもない、何でもないのよ……………どうもしないわ…………………………何でもないったら……………さっきと同じよ……………ちっとも。あなたの思い違い……………さっきと変わりはないわよ……………おわかりでしょ、終わってしまうだなんて思いもしないで、ただ話に夢中で、なにに切れてしまったものだから、なにもない、真っ暗な場所に落ち込んだような気がして……………だからつい……………（泣く）……………ねえ、あなた。私、あなたに嘘ついたことはないわよね……………ええ、わかっています、わかっている、あなたを信じてるわ、本当にそう思ってるわ……………いいえ、そういうことじゃないの……………だって、さっきあなたに嘘をついてしまったんですもの……………たった今……………ほら……………電話で、15分前から嘘をついてるの。待ってみても、もう何の望みもないってわかっているし、嘘をついて運が開けるわけでもないわ。それに、あなたに嘘をつきたくないの。あなたの幸せの為だとしても……………あら！大したことじゃないのよ、あなた、心配しないでちょうだい……………ただ、私の着ていた洋服のこととか、マルトの家で夕食をしたと言ったこと、あれが嘘なの……………夕食は食べなかったし、薔薇色のドレスも着なかった。シュミーズの上にコートを羽織っただけ。だって、あなたからの電話を待って電話を見つめて、座ったり、立ったり、あちこち歩き廻ったりしたせいで、気が狂いそうになってしまったからなの、気違いみたいだったのよ！そうして私、コートを羽織って、出かけようとしたの。タクシーを拾って、あなたの家の窓の下まで行こうとしたのよ。待とうと思って……………

ええ、そうよ！待って、何を待つのか自分でもわからなかったけど……………あなたの言う通りよ……………いいえ……………いいえ、聞くわ……………おとなしくするわ……………聞いているわよ……………全部答えま、誓います……………ここにいたの……………何も食べなかった……………食べられなかったの……………ひどく具合が悪くて……………昨夜、眠ろうと思って錠剤を一つ飲もうとしたのよ。その時に思ったの。もし、もっと飲んだら、もっとよく眠れるのにな。もし、全部飲んだら、夢も見ないで、目も覚めないで眠れるのに。死ぬるはずなのにな。（泣く）……………12個飲んだの……………お湯で……………正体がなくなったみたいだった。そして夢を見たの。現実そのままの夢をね。飛び上がって目を覚ました時はホッとしたのよ、だって夢だったんですもの。でも、それが現実で、私はひとりぼっちで、あなたの肩や首筋に頭をもたせかけてもいないし、あなたの脚に私の脚がはさまれてもいないって気付いた時、もうだめだ、もうとても生きてはいけないうって感じたのよ…………………………だんだん身体が軽く、冷たくなって、もう自分の心臓の鼓動もきこえなくなったの。でも、死はなかなか来てくれそうもなくて、苦しくてたまらなくなって、1時間くらいしてからマルトに電話したの。私にはひとりぼっちで死んでいく勇気がなかったのよ……………あなた……………あなた……………朝の4時だったわ。マルトが同じ建物に住んでいるお医者様を連れて来てくれたの。熱が40度以上あったのよ。薬で死ぬってとても難しいみたい。たいてい薬の量を間違えるらしいわ。そのお医者様が処方箋を書いてくれて、マルトは夕方まで私のそばについてくれた。私が頼んで彼女に帰ってもらったのよ。だって、あなたが最後の電話をして下さるって言ってらしたから、他人にあなたとの話の邪魔をされるのが嫌だったのよ……………大丈夫、すっかり具合はいいの……………もう何ともないわ……………いいえ、本当よ……………少し熱があるだけ……………38度3分……………神経性のもよ……………心配はいらないわ……………私ったら、なんて不器用なのかしら！あなたに心配かけないで穏やかに別れよう、また明日にでも逢うような顔をしてさよなら

を言おうって心に決めていたのに……………
ばかよね……いいえ、いいえ、ばかなのよ！
……………この電話を切って、
暗闇に落ち込むことが耐えられなくて……………
(泣く)……………もしもし！……………切れたかと思った
……………あなたっていい方……………愛しいあなた
を苦しめてばかりいるわね……………ええ、話
して、話してよ、何でもいいから……………苦しくて、
床の上を転げ回るほどだったのよ、でも、あなたが
こうして話して下さるだけで気分が良くなるし、眼
をつむれるのよ。ねえ、よく一緒に寝ていて、あ
なたが話す時に、私があなたの胸のいつもの場所
に、耳を押しつけるようにして頭をくっつけていた
でしょう。私が聞いたあなたの声、今夜の受話器の
声と全く同じだわ……………卑怯？……………卑怯な
のは私よ。ちゃんと心を決めていたのに……………
私……………とんでもないわ！あなたは……………あなた
は……………あなたは私を幸せにして下さっただけ
……………でも、あなた、もう一度言うけど、
そうじゃなかったのよ。
私は知っていたんですもの——そうよ、知っていた
の——こんな時が来るのを覚悟していたのよ。女性
の多くは愛する男性のそばでずっと過ごせ
ると思い込んでいるのに、だしぬけに別れを
知るんだわ——でも、私は知っていたの——
……………その上、あなたに
まだ言ってないけど、あのね、帽子屋で、雑誌に
載っているあの人の写真を見たの……………机の上
に、ちょうどそのページが大きく開いて出ていたの
よ……………人間的、もっと正確に言えば女性的かし
らね……………とにかく私たちの最後の時を台
無しにしたくなかったの……………いいえ、当たり前の
ことよ……………私は言われるほど立派な女じゃな
いわよ……………もしもし！音楽が
聞こえる……………「音楽が聞こえる」って言った
の……………それなら、あなた壁をたた
いて、隣の人がこんな時間にレコードをかけるの
をやめさせたらどうなの。あなたが家を留守にば
かりしてるから悪い習慣が身に付いちゃったのよ
……………それには及びませ
ん。それに、マルトのお医者様が明日また来て下さ
いますから……………いいえ、あなた。とてもいい先
生だし他の先生に来て貰って気を悪くさせる必要な
んてないでしょう……………心配なさらなく

ても結構です……………ええそう……………そうよ……………
彼女があなたに様子を知らせてくれるでしょう
……………
……………わかるわ……………
わかっています……………それに今度は大丈夫、とて
も元気になりました……………何が？……………ま
あ！本当よ、ずっとよくなりましたわ。もしあな
たが電話を下さらなかったら、死んでしまってい
たかもしれませんが……………いいえ……………
まって……………待って頂戴……………何とかして頂戴
……………(彼女はそこら中を歩き回って苦しみのあま
りうめき声をもらす)……………ごめんなさい。こ
んな場面はあなたには耐えられないはずで、とて
も我慢してるってわかっているわ。でも、わかっ
て頂戴、私苦しくて、苦しくて。この電話線だけ
が私たちをつないでいる最後のものなんですもの
……………——昨日の夜？眠ったわ。電話
と一緒に寝たのよ……………いえ、いえ、ベッドの中
でよ……………ええ、わかっているの。私ったらとても変よ
ね、だけど電話をベッドに持ち込んだのよ、だって⁽⁷⁾、
とにかく、電話だけで私たちはつながっているん
ですもの。電話はあなたの家まで届いてる、そしてあ
なたから電話をかけてもらう約束があったでしょ
う。そうしたら、いろんな夢を見たのよ。電話が鳴っ
て、その電話があなたが私を殴った実際の拳になっ
て、倒れてしまった夢とか、首を、電話が首を締め
付ける夢、そうかと思うと、私がオートウイユのア
パートによく似た海の底に沈んでいて、潜水具の管
であなたにつながっているの、そして管を切らない
でってあなたに懇願してたりするのよ——
そりゃあ話してしまえば、ばかげた夢ばかりよ、
でも眠っているときは現実なんですもの、だから
とっても恐ろしかったの……………あなた
が私に話して下さっているんですもの。この5年
間、あなたを頼りに生きてきたの、あなたは私
が吸うことのできるたった一つの空気だったの
よ、あなたを待ちながら、来るのが遅くなると死
んでしまったと思ったり、そう思うと死にそうにな
って、あなたが入ってくると生き返って、つい
には、あなたがここにいてくれても、あなたが
出ていってしまうのが怖くて生きた心地もしない、
そんな風に時を過ごしてきたのよ。今はあなた
が話をして下さるから息をしてられるの。私の
夢はそれほどばかげていないわね。もしあなたが

この電話を切るなら、管を切る事になるんだもの
 ……………
 そうよ、あなた、眠ったわ。眠れたのは初めてだったからよ。お医者様もそう言ったわ、中毒なんですって。最初の夜は眠れるのよ。それに苦しいから気が紛れるのよ、全く新しい苦しみだから。だから耐えられるの。耐えられなくなるのは2日目の夜、昨日ね、そして今夜が3日目、もう何分もないわ、そして明日、明後日、それから来る日も来る日も、ああ！いったい何をしろって言うの？
 ……………
 ……………熱なんかないわ、全然ないわよ、自分でわかるの……………だって、どうにもならないことなんだもの、勇気を出してあなたに嘘をついていた方がよかったんだわ……………それで……………それで眠れたとしましょう、眠ればあの夢を見て、目が覚めて、食事して、起きて、支度して、外出して、そしてどこへ行けばいいの？
 ……………でも、あなた、私はあなたの世話をする以外、何もすることがなかったのよ……………いいえ！私はいつも全てを捧げてた、そうよ。あなたに捧げてたの、あなたのために……………マルトはきちんと暮らしているわよ……………それは、魚に水なしでどうやって生きていくのかと聞くようなものだよ……………もう一度言うけど、私は誰も欲しくないのよ……………気晴らしですって！じゃあ、一つだけ言うわ、あまり詩的じゃないけど本当の事よ。あの日曜日の夜から、私、たった一度だけ気が紛れることがあったわ、歯医者に行って神経に触られた時よ……………その時だけ……………それだけよ……………
 あのこは2日前から玄関から離れないの……………呼んで、撫でてあげようとしたのよ。でも、あのこは触らせようとしなくていいのよ。もう少しで咬みつかれるところだった……………そうよ、私に、私によ！歯を剥き出しにしてうなるの。本当に、まるで別の犬みたいなのよ。こわいわ……………マルトの所？誰も寄せ付けなくて言ったでしょう。マルトは外へ出るのにとっても苦労したのよ。ドアを開けさせないんですもの……………かえってその方がいいわ。本当にあのこが怖いよ。何も食べないし、動こうともしない。私を見るとときなんかは鳥肌がたってしまうわ……………どうしたら私にわかるっ

ていうの？あのこ、私があなたに悪いことをしたと信じてるのよ……………かわいそうな犬ね……………私はあのこを憎む理由なんてないの。あのこの気持ちはとてもよくわかるんですもの。あのこはあなたが好きなのよ。でも、あなたが戻ってこないでしょう。それが私のせいだと信じてるのよ……………試しに、ジョゼフをよこして下さらない……………きっとジョゼフなら後をついていくわ……………ああ！私？……………どっちでもいいのよ……………あのこは私に全くなついてないの。それが証拠よ！……………ひよっとしたら、そんなふうに見えたかもしれないわね、でも、私があのに触らない方がいいってことは確かよ……………もし、あなたが引き取りたくないのなら、保健所に入れるわ。病気になるったり、野良犬になったりしたらいけないから……………あなたのところなら誰にも咬みつかないわ。あのこはあなたが愛している人たちが好きなんだから……………だから、私が言いたいの「あのこはあなたと一緒に生活している人たちが好きなんだ」ってことなの……………そうよ、あなた。それはわかっているわ。でも、相手は犬なのよ。いくら賢くても、それをわからせるのは無理よ……………私、あのこの前で遠慮なんかしなかった……………だから、あのこが見たことは全て神様が知っているのよ！……………私が言いたいの、あのこは私がわからなくなっていて、多分私を怖がっているってこと……………わかるはずないわ……………その逆よ……………ジャンヌ叔母さんのことを思い出してごらんささい、息子さんが死んだって私が知らせに行った夜のことを。彼女はとても青白くて、小柄な人でしょ——なのに、真っ赤で大きな身体の女になったの……………赤い顔の大女よ。頭は天井にぶつかり、いたるところに手が届き、彼女の影が部屋中に広がって、怖かったわ……………とても怖かった！……………ごめんなさい。ちょうどその時、彼女の犬がいたのよ。整理ダンスの後にかくれながら、なにか獣に吠えるように吠えてたわ……………だって、わからないわ、あなた！どうやってわかれとおっしゃるの？私だってもう正気じゃないんですもの。私、驚くような事を行ったの。考えてみて頂戴⁽⁸⁾、私ったら写真の詰まった包みと写真屋の封筒を一気に引き裂いてしまったの。自分でも気づかないうちにね。男にだって随分

力のいることなのに……………運転免許証の写真もね
……………え？……………いいのよ、だってもう免許証なんか必要じゃないもの……………たいした損害じゃないわ。ぞっとするような様子だったでしょうね、私……………絶対しないわ！私は旅行中にあなたとめぐり合うという幸運に恵まれたのよ。この先、もし旅行をしたら、あなたに会うという不幸に見舞われかねないもの……………そんなに言わないで……………もうよしよし……………もしもし！もしもし！奥さん、お切りになって下さい。相手が違います。もしもし！違いますってば、奥さん……………いいえ、奥さん、私たち他人を面白がらせるつもりはありません。混線したままにしているあなたの方が間違っているんじゃないですか……………もし私たちのことを滑稽だと思えば、なぜ電話を切るかわりに時間を無駄になさるの？……………ああ！……………あなた！あなた！怒らないで……………やっ！……………いいえ、いいえ。今度は私よ。私が受話器にさわったの。あの女は切ったわ。卑劣なことを言った後ですぐに切ったわ……………もしもし！……………あなた、動揺してるよね……………そうよ、あんなことを聞いたからこたえたのよ、声でわかるわ……………ショックだったのよ！……………私は……………でも、あなた、あの女の人はとても嫌な性質の人にちがいないし、あなたのことは知らないわ。彼女はあなたを普通の男と同じだと思っているのよ……………いいえ違うわよ、あなたは！似ても似つかないわ……………後悔って、何を？……………もしもし！……………やめてよ、やめて頂戴。もうそんなばからしいことは考えないで。おしまいにしましょう……………あなたって、なんてお人好しなの！……………誰？誰だっていいのよ。一昨日、私、Sで始まる名前の人に会ったの……………Sという字よ——B.S.——ええ、アンリ・マルタンの……………彼女、私にこう聞いたわ、あなたに兄弟がいるのか、結婚の通知を出したのはその人かって……………それで私がどうにかなると思った？……………それが真実……………お悔やみを言われてるみたいだったわ……………正直言うと、私はそこに長くはいなかったわ。家にお客様が来るって言ったの……………そんなに難しく考えることないわ、とても単純なことよ。世

間の人は相手が自分から離れていくのが嫌いなのよ、なのに私はだんだん周りにいる誰からも離れて行ったの……………二人でいる時間を一分でも失いたくなかったから……………全くどうでもいいことなの。言いたいことを言わせておけばいいわ……………物事は公平にしくなくちゃいけないわ。私たちの立場は世間の人にはわからないのよ……………世間の人には……………世間の人から見れば、人は愛し合うか憎み合うかでしょう。別れは別れなの。彼等は早急に物事を判断してしまう。わかって貰おうとしてもだめよ……………あなた……………わかって貰える筈がないのよ、こういうことに関してはね……………一番いいのは、私のように気にかけてくれないことよ……………何もかもをね（かすかな苦しみの叫びを漏らす）ああ！……………何でもないの。私に夢中で、いつものように二人で話をしていると信じてたのが、急に現実に引き戻されたの……………（泣く）……………どうして、まだ幻想を抱いたりするのかしら……………ええ……………そうね……………いいえ！以前だったら逢ったのよ。夢中になって、約束なんか忘れて、出来るはずのないことまでやったの。好きな人を抱きしめたり、しがみついたりして説き伏せることもできた。眼差し一つで全てが変わったものだった。でも、この電話が相手じゃ、終わったものは終わったもの……………御心配なく。二度は自殺をしないというわ……………眠るためには使うかもしれないわね……………ピストルを買うことはできないわ。それにピストルを買う私を想像できないでしょう！……………私の大好きなあなた、私に嘘を考え出す力があるっていうの？……………何もないわ…元気を出さなきゃいけないはずなの⁽⁹⁾。嘘が役に立つ時もあるわね。あなた、もしあなたが別れの辛さを和らげようとして嘘をついたとして……………いいえ、あなたが嘘をついたって言いたいんじゃないの。私が言ってるのは「もしあなたが嘘をついて、それを私が知っても」ということよ。例えば、あなたは家にいなかったのに、私には……………いいえ、違うの、あなた！聞いて……………あなたを信じてるわ……………あなたを信じないなんて言おうと思ったん

じゃないの……………どうして怒るの?……………そう、あなたの声、怒ったときの声よ。ただ、私が言いたかったのは、もしあなたが私に対する心遣いから嘘をついて、私がそれに気づいても、あなたへの愛はますます深まるばかりだということ……………もしもし!もしもし!……………もしもし!……………(低い声で、早口に次のように言いながら受話器を置く) 神様、どうかあの人がかけて直してくれますように。神様、どうかあの人がかけて直してくれますように。神様、どうかあの人がかけて直してくれますように。神様、どうかあの人がかけて直してくれますように。神様、どうか(電話が鳴る。受話器を取る) 切っちゃったのよ。私が言おうとしていたのは“もしあなたが私に対する心遣いから嘘をついて、私がそれに気づいても、あなたへの愛はますます深まるばかりよ”ということ……………もちろんよ……………おばかさんね……………あなた……………愛しい人……………(電話のコードを首の周りに巻く)……………もう切らなくてはいけないのはわかってるわ、でも、怖くて……………その勇気が出そうもないの……………ええ、向かい合っているように錯覚してるけど、いきなり地下室や下水道や街中の全てが私たちの間に入り込んでくるんですもの……………覚えている? イヴオンヌが、どうしてこんな捻れた線を通して声が伝わるんだらうって聞いたのを。私ね、コードを首の周りに巻き付けたの。あなたの声も私の首の周りにあるの⁽¹⁰⁾……………電話局が何かのはずみで切ってくれればいいけど……………まあ! あなた! 私がそんなひどいことを考えるなんて、どうして思うの? 同じように電話を切るにしても、私よりあなたの方が辛い思いをするってこと、よくわかってるわ……………いいえ……………いやよ、まだいや……………マルセイユに?……………ねえ、あなた、明後日の夜、あなた方がマルセイユに行くのなら、どうぞ……………お願い……………お願いだから、私たちがいつも泊まっていたホテルには泊まらないで欲しいの。怒ったの?……………なぜって、私が想像できないところで起こることは、ないのと同じことなの。もしあったとしても、どこか漠然とした場所で起こることなら、少しはましなのよ……………わかってくれる?……………ありがとう……………ありがとう。いい方

ね。愛してるわ。(立ち上がって手に受話器を持ったままベッドに向かっていく)

それじゃ、これで……………これで……………私、ついうっかり「またね」って言うところだったわ……………それはどうだか……………わからないわ……………ああ!……………その方がいい。ずっといいわ……………(ベッドに横たわり受話器を抱きしめる)

あなた……………大切なあなた……………私は大丈夫よ⁽¹¹⁾。早くして。さあ。切って! 早く切って! 切って! 愛しているわ、あなたが好きよ、あなたが好きよ、あなたが好き、愛してる⁽¹²⁾……………(受話器が床に落ちる)

幕

まとめ

翻訳するにあたって注意をしたことは、《……………》で表現してある相手の男の台詞を考え、それに対する女の感情の動きを感じることに加えて、オペラの台本に用いられた部分ではプーランクが表現しているものを楽譜と音楽から感じ取り、それに相当した訳をすることであった。原作は女の性格づけや相手の男の様子、かつて二人の間でおこった出来事がオペラの台本よりも細かく表現されているが故に、女性の嫌な面が浮き彫りにされているように思われる。しかしながら、そこに存在していたのは、受話器に向かって囁き、溜息をつき、泣き、ありったけの感情を込めて哀訴し、最後には絶望のあまり絶叫してしまう女。自分の全てをさらけ出した、真に人間らしい女性であった。それを、オペラを上演する際に生かすか否かは歌手と演出家の考えによるのだが、コクトーの描いた女性像を全く知らないで役作りをすることは避けるべきである。

楽譜を綿密に調べてみると、ほとんどRecitativo(叙唱)しか存在しないと思われるこの作品で、女が本当に言いたかった自殺未遂のくだりは唯一のAria(詠唱)として書かれている。また、コクトーが《……………》で表現した部分の他に多くの間をつくったり、逆に間をとっていない部分があるのがわかる。それは50分間歌い続けるソプラノが息をつく箇所であり、女の心の動きや相手の言葉を演技で表現し

なければならぬ箇所なのである。声楽という分野は、全ての人間が持っている声帯を楽器として演奏する芸術である。プーランクがコクトーの書いた台本の抑揚を音楽上で尊重しているのであれば、原語で『人間の声』を上演することは、フランスの声楽作品を研究する者にとって大きな挑戦であると同時に声楽家としての成長をもたらしてくれるものだと思われる。機会があれば、新たな役創りをして、もう一度上演したい作品である。

今回の経験で、台本のみで役作りをすることは登場人物を把握しきれない危険性をはらんでいることを再認識できた。一方、オペラ作品には歴史的人物や旧約聖書を題材にしたものも数多くある。楽譜に書かれている事だけではなく、宗教や歴史、作品が作られた背景などを理解することも、原作の研究とともに、表現に大きな影響を及ぼすものだと考える。これらのことをふまえ、今後の自分自身の演奏活動に生かしていきたいと考えている。

文献

ジャン・コクトー (Jean Cocteau) 『ジャン・コクトー全集』第7巻より『声』一羽昌子訳、(1983) 東京創元社

アンリ・エル (Henri Hell) 『フランシス・プーランク』村田健司訳、(1993) 春秋社

注

- (1) アンリ・エル (Henri Hell) 『フランシス・プーランク』村田健司訳、1993,春秋社,P207
- (2) ジャン・コクトー (Jean Cocteau) 『ジャン・コクトー全集』第7巻より『声』一羽昌子訳、(1983) 東京創元社
- (3) コクトーがシェークスピアの原作をダイジェストした「ロメオとジュリエット」(1924年初演)を指す。
- (4) 恋あり、冒険あり、涙ありの通俗劇の事。現在では洗練された喜劇一般を指す。
- (5) オペラでは「Ah! 」という感嘆詞が入っている。
- (6) 原文は「Ah! oui 」だが、歌詞では「Allô 」となっている。
- (7) 原文は「Parce que 」だが、歌詞では「et 」となっている。

(8) 原文は「Pence 」だが、歌詞では「Songe 」となっている。

(9) 原文は「de la force 」だが、歌詞では「du courage 」 となっている。

(10) オペラではこの部分が再度繰り返されている。

(11) 原文は「brave 」だが、歌詞では「forte 」となっている。

(12) 原文は「Je t'aime 」だが、歌詞では「t'aime 」となっている。

(2006年10月20日受付)

(2006年12月6日受理)